

来光

第30号

浄土宗

迎 接 院

令和3年12月

HP



LINE



はじめに 住職 伊藤信道

『^{らいこう}来光』第30号をお届けします。

10月のある日、お檀家さんから一本の電話がありました。

檀「和尚さん、孫が生まれました。」

私「あら～！おめでとうございます。」

檀「孫の名前を考えてもらえないでしょうか？」

私「え～！本当ですか？」

突然の依頼に驚きましたが、大変光栄なこと。名前を考えさせてもらうことになりました。

「^{かいみよう}戒名（佛弟子となった^{あかし}証の名前）」はいくつも贈らせていただいているのですが、子どもの名前は長男一人しかつけたことがありません。昔、さだまさしさんが「♪それから親父は占いの本と辞書と首っぴきで実は一週間もかけて♪（親父の一番長い日）」と歌われましたが、数日頭をひねりました。「幸多かれ！」と願いながら名前を考えるのは、とても楽しい時間でした。

「お子様のお誕生おめでとうございます。こんな子に育てて欲しいというご家族の願いが一番大切です。あくまで名前を決められる『候補』として考えてみましたので、ご家族でよい名前を決めてください。」の言葉を添え、3つの候補をお届けしました。数日後、「その中の1つに決めました。」と嬉しい連絡をいただきました。

ご家族の大切な時間や場面でお寺の存在を頭に浮かべていただいたことに感激致しました。お寺が身近で、大切な存在でありたいと思います。合掌



弓ヶ浜小学校

1頁：はじめに、目次

2頁：＜特集＞ 弓ヶ浜の宝物を探せ①

3頁：＜特集＞ 弓ヶ浜の宝物を探せ②

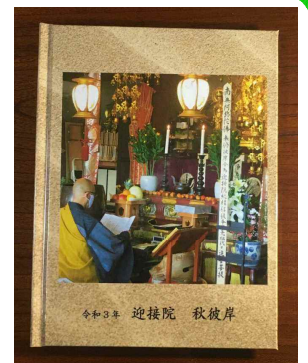
4頁：令和3年の秋彼岸について

5頁：選択集十六章之図解説、『選択集』第十章を読もう

6頁：お檀家さん紹介 やぐら鮎 矢倉 陽一さん

7頁：今後の日程、諷誦会の案内、浄梵会の案内

8頁：作品展・書道展の募集、春休み子ども寺子屋の案内、なむちゃん



<特集>

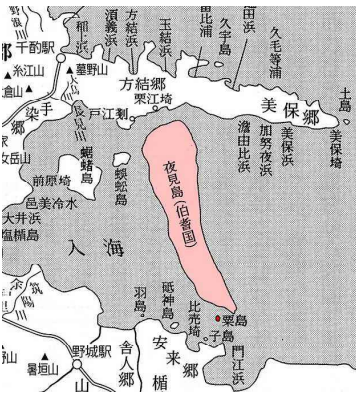
「弓ヶ浜の宝物を探せ！」その①



10月29日、住職が弓ヶ浜小学校のゲストティーチャーに招かれ、3年生のなぎさの出前授業「弓ヶ浜の宝物を探せ」を行いました。



今から1200年前に夜見島とよばれた土地に砂が



たいせき堆積して現在の弓ヶ浜半島が形成されたのが江戸時代のことです。

新しくできた弓ヶ浜に近隣から人々が集まってきます。夜見の開拓は寛文9(1669)年、富益の開拓は宝永5(1708)年に始まると伝わります。

砂州である弓ヶ浜には川がありませんでした。入植してきた人は「砂との闘い」の生活でした。「一所懸命」という言葉がありますが、命懸けで

この土地を開いていかれたことでしょう。川のないこの土地に日野川の水を通す「米川」が夜見・富益まで通ったのは、享保10(1725)年のことでした。



大切な米川の水を使って、何を作ればいいのか？

悩んでいた入植者に届いたのが「サツマイモ」でした。サツマイモを伝えてくださった「芋代官様」井戸平左衛門正明公について紙芝居で紹介しました。サツマイモの他、綿を栽培して布団綿や家族の衣類「弓浜餅」を織ったことも伝えました。



弓ヶ浜の開拓から300年以上たちました。昔はサツマイモや綿しか作れなかったのが、技術の進歩により白ネギやお米も作れるようになりました。たくさんの方が住み、弓ヶ



浜はとても賑やかな町になっています。そんな中、現在行われている「一斉清掃」「弓ヶ浜の松守り隊」「芋代官祭」の取り組み等を通して、先人が大切にしてきたものを今の人もしっかり大切にしていることを伝えました。

(その②に続く)

「弓ヶ浜の宝物を探せ！」 その②

出前授業の最後に、「弓ヶ浜の宝物は見つかりましたか？」と子ども達に問いかけました。すぐにたくさん手が挙がりました。子ども達の見つけた宝は、「(最近作れるようになった) お米」「弓ヶ浜！」「イモ」「ネギ」「米川」「お寺にある芋代官様の石碑」「井戸平左衛門様」等々。どの答えも、この授



業で紹介したものばかりでした。一生懸命に勉強する子ども達の姿に感激しました。

「弓ヶ浜を命懸けで開拓したご先祖様が守りたかったものは何か？」それは自分や、家族や仲間の「命」。その命を受け継ぐ「弓ヶ浜小学校の3年生一人ひとりが弓ヶ浜の宝物だ」と出前授業の最後に伝えました。

11月4日には、フィールドワークでお寺に来てくれました。井戸様を讃える「芋代官碑」、夜見開拓の中心となった森六郎右衛門の「夜見村開基碑」、戦死した方を供養する「英霊塔」、江戸時代に海から揚が



ったと伝わる「御本尊阿弥陀如来像」、「弓浜緋の機織り場」などを熱心に勉強してくれました。

芋代官碑や夜見村開基碑は、風雪により風化して次第に石に刻まれた文字が読みにくくなってきております。数十年後、この石碑の文字が読めなくなった時に、「自分たちが小学生の頃は、この字が読めたんだ！」という地域の歴史の生き証人になってくれたら嬉しいです。



キラキラした目で一生懸命学んでいる子どもたちの姿は、ご先祖様も井戸様も、阿弥陀様



もお喜びくださったことと思います。先人が守り繋いでくださった「証」、

この子ども達こそ弓ヶ浜の宝なのだ実感しました。

子ども達の益々の成長と多幸を、心より祈っております。合掌



令和3年の秋彼岸について

彼岸の中日に予定していた「第4回 秋彼岸 佛さまと弓浜手作り市」は、新型コロナウイルス感染予防のために残念ながら開催見送りとなりました。

中日の彼岸法要については、お寺の役員と詠唱講員のみでの参加で行いました。当日の様子はライブ配信し、画面を通してお参りいただきました。



本年の限定のご朱印は「佛道」としました。お彼岸は、煩惱の世界である「此岸」から悟りの世界「彼岸」を求め、佛道修行をする期間とされています。新型コロナウイルス感染症対策として「書き置き」のご朱印を京都にいる晃希が心を込めて書きました。

お彼岸の一週間、密にならないように気をつけながらたくさんの方々がお参りくださいました。本堂や開山堂にお参りし、ご本尊様に縁を結んでいただいたことはとても有難いことでした。



9月25日別時念佛会の様子



お彼岸に真西に沈む太陽の先にある極楽浄土に祈りを捧げ、先に往生されているご先祖様との「共生き」を感じることができたでしょうか。



選 択 集 ^{せんちやくしゆう}

第 十 章

来 迎 ^{らいこう} の 化 佛 ^{けぶつ}

た だ 念 佛 ^{ねんぶつ} の 行 ^{ぎょう} を 誉 ^ほ め 給 ^{たま} う の 章 ^{しょう}

第十章段では、『^{かん むりようじゆきよう}観 無 量 寿 經』には經典の名前を聞く功徳 ^{くどく}よりも、お念佛を称えることが重要であると説かれています。

この世で多くの罪を犯してしまった者が、^{りんじゆう}臨 終 ^{せんちしき}の 善 知 識 (僧) に会い、様々な經典の名を聞くことで ^{せんこう}千 劫 もの重い罪を取り除くことができた。さらに善知識は、合掌して「南無阿弥陀佛」と称えることを教え、それに従いわずか一声のお念佛を称えたことで ^{ごじゆうおくこう}五 十 億 劫 の罪を取り除くことができました。その時阿弥陀佛は、極楽より仮の姿を現した化佛 (阿弥陀佛)・化菩薩 (観音勢至菩薩) を ^{つか}遣 わ せ 救 い の 姿 で その 人 の 前 に 現 れ、
「^{なんじ}汝 は お 念 佛 を 称 え た の で、諸々の罪は消滅した。そこで今私が迎えに来たのだ」とお念佛を称えたことを ^ほ誉 め ら れ た と 説 か れ て い ます。

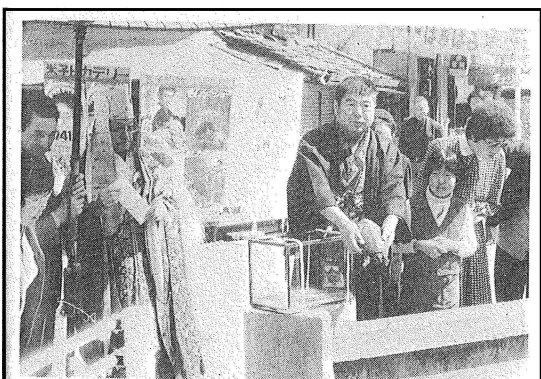
絵の中央で如意を持った僧が臨終の善知識。図の右の佛様は、^{けぶつ}化 佛 (衆生を救うために、さまざまに姿を変えて現われた佛) の弥陀三尊で、念佛者をお迎えに来られた「^{らいこう}来 迎」を表しています。布団から半身を起し合掌念佛をしている行者にはお浄土の阿弥陀様から ^{せつしゆ}光 明 撰 取 の光が筋として描かれています。

<お檀家さん紹介>

やぐら鮭

矢倉 陽一さん

米子の繁華街 朝日町にある「江戸前 やぐら鮭」。創業56年を迎えた老舗で、先代から続く『粋をにぎるプロの味』を二代目主人の矢倉陽一さんがご家族と一緒に守ってられます。豊洲市場から仕入れた生本鮭や、地元の旬の魚をちりばめたコース料理は、お子様からご年配の方まで幅広く愛される米子の名店です。



この店に、古い新聞記事（昭和55年3月26日）と写真が飾られています。先代（故矢倉輝義さん）が、開店15周年を記念して「スッポン供養祭（放生会）」を開催された様子が日本海新聞に掲載されたものです。お店から加茂川までを開山伊藤麟雄を先頭に御練りをする写真もありますが、陽一少年も写っています。

スッポン君を川へ
専門料理店が供養祭

スッポン君ありがとう、君は
なりのスッポン君のおかげで、
病弱、精力減退の強弱の形勢と、
しく皆々さんに多く多く、
れ降した、んんんんんんんん
スッポン供養祭（放生会）
スッポン君ありがとう、これ
国京市内にある、
朝日町の「やぐら鮭」
矢倉さん経営の「スッポン
川から仕入れ、スッポンを
備りよの鮓の中で、スッポンを
よこし話してい

スッポン君を川へ
使っている。
開店15周年
を記念して、
店が繁盛し
てきたため、
近々の加茂川
へ放生会を
行なうこと
を決定した。
スッポン君
の仲間の分
を代表して、
スッポン君
の供養祭を
行なうこと
を決定した。
スッポン君
の供養祭を
行なうこと
を決定した。



先代の輝義さん（陽一さんの父）は、夜見の出身。戦時下お寺の託児所にも通っており、開山夫妻との縁はとて



強かった。寿司職人となり、苦勞して朝日町でお店を開いたことを開山夫妻はとて喜んでおりました。輝義さんもお寺をとて大切にしてくださいました。残念ながら思わぬ早くお浄土へと旅立たれましたが、その跡を陽一さんが立派に守ってられます。

実は、矢倉陽一さんと住職は小学校・中学校の同級生。お母様・奥様を大切に、これからも美味しい寿司を握ってね、陽ちゃん！

今後の日程

- 12月11日 14:00~ 浄焚会
 12月31日 23:45~ 修正会
 1月25日 8:00~ 御忌
 2月15日 10:00~ 涅槃会
 3月21日 10:00~ 諷誦会
 3月25日 8:00~ 数珠繰り
 3月25日 迎接院作品展
 (~3月27日まで)
 3月27日 桂文吾落語会
 5月8日 10:00~ 花まつり
- ☆毎月25日 別時念佛会
 ☆第1・第3金曜 詠唱会
 ☆毎朝6時 朝のお勤め

毎年恒例の春彼岸法要(諷誦会)を左記の日程で開筵致します。お揃いでご参詣の程、ご案内申しあげます。

◎とき 三月二十一日(月・祝) 午前十時開筵

先祖回向につきましましては、三月十四日までにお申し込みください。初の彼岸(新諷誦)回向につきましましては、別途ご案内申しあげます。

☆「諷誦文(回向文)」をお渡ししています。ぜひご先祖様にお供えください。



ホームページ



LINE



今後も行事の急な変更・中止等が出てくると思います。迎接院のホームページ (kousyouin.com) やLINEの公式アカウントでお知らせします。

浄焚会のご案内

浄焚会を下記の日程で行います。古くなった塔婆や白木の位牌をお焚きあげします。

今年は平成31年・令和元年にお亡くなりになった方の白木の位牌の焚きあげもします。皆さんのお念佛でご供養しましょう。



- とき 令和3年12月11日(土) 午後2時~
- ところ 迎接院本堂・境内にて

青少年書道展・迎接院作品展の作品大募集！

浄土宗児童教化連盟が主催する全国青少年奉納書道展に出品する作品を募集します。出品いただいた作品は総本山知恩院へ奉納いたします。迎接院作品展も行いますので、作品を2枚仕上げて出品してください。

迎接院の作品展 3月25日(金)～3月27日(日)

また上記の日程で迎接院作品展も開催します。迎接院作品展は大人の部も計画しています。書道や写真・絵画・手芸など沢山の参加をお待ちしております。



春休み子ども寺子屋を開催します！

今年も恒例の春休み子ども寺子屋を行います。平日朝9時から1時間、学習の場を提供し一人学びを支援します。

参加は無料。希望の方は、ご連絡ください。

担当：伊藤 紀子 (☎29-0809)



☆春の状況がどうなっているかわかりませんが、夏休みと同じように①マスク着用②手指消毒③朝の健康状態の確認④人数制限⑤ホームページやLINEによる緊急連絡等を行いながら対応したいと考えております。

浄土宗HP (<http://www.jodo.or.jp>) より引用。